

地域における市民活動の認知に関する調査研究

—東京都杉並区善福寺川を対象として—

1X13D077-4 藤本 典大*

Norihito FUJIMOTO

市民参加型事業や市民活動への社会的な注目が見られる中、地域に見合った継続的な周辺住民の活動への関わり方を模索する上で、事業や市民活動が地域にどのように認識されているかを把握することは重要だと考えられる。本研究では市民活動が盛んに行なわれている河川を対象として、活動の実態把握をするとともに、周辺住民の事業や市民活動の認知およびまちへの関心に関するアンケート調査を行った。その結果、「活動の認知」「河川の知識」「事業の知識」の3つの要素間には強い相関関係があり、「活動の認知」には「河川の知識」や「事業の知識」が影響をもたらすことを明らかにした。

Keywords : 善福寺川、市民活動、アンケート調査、活動の認知

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

公園整備事業などの公共事業は行政が主体となって行われていたが、行政と市民がパートナーシップを組んで事業の基本計画の立案を行う市民参加型が推進されている。河川法(1997)や都市計画法(2000)が改定されたことによって、河川整備計画や都市計画マスタープランの計画策定段階における市民参加が義務化された。市民参加型事業では、地域住民やNPO、行政等だけでなく専門家(デザイナー)も含めた多様な主体により事業が行われることで、地域住民の意見が積極的に反映された上で、時代や価値観の変化によって左右されにくい空間づくりができると示唆されている¹⁾。また、事業を通じて地域内の新たな交流や協力体制を芽吹かせること、周辺住民が地域に対して関心や問題意識を抱ききっかけになることも市民参加型事業の効果であると考えられる²⁾。

市民参加型事業への社会的な注目や必要性が見受けられる中で、一部の既存研究では課題が指摘されている。一例としては、事業の維持管理段階において住民による主体的な活動が継続的に発展することは、必ずしも全ての事例に見られるとは限らないことが指摘されている³⁾。

市民の意見が反映された魅力ある空間を、一過性のものにするのではなく、長く地域に魅力と愛着を持たれるものにするためには、精力的かつ継続的な周辺住民による関わりが必要である。地域に見合った周辺住民の関わり方や維持管理の方法を模索する上で、地域における市民活動が周辺住民にどのように認知されているかを把握することは重要だと考えられる。

1.2 研究の目的

本研究では、市民活動が活発に行われている善福寺川を対象地とし、以下の内容を目的とする。

- 1) 現地調査やヒアリング調査より、市民参加型事業や市民活動の実態を把握する。
- 2) アンケート調査より、市民活動や事業が地域にどのように認知されているかを把握し、どのような要因が「活動の認知」に影響を与えているのかを明らかにすること。

2. 研究概要

2.1 既存研究の整理

本研究に関する研究を、住民の関わり方に関する研究と市民団体の活動に関する研究、善福寺川における市民活動に関する研究とに大別し、以下に整理する。

① 住民の関わり方に関する研究

伊藤ら³⁾は、参加型社会資本整備において、市民主体の継続活動に展開する流れを明らかにするとともに、その過程において「人」「意識」「環境」の3つの要因の形成が重要であることを事例調査から仮説検証した。金⁴⁾は、児ノ口公園におけるイベントや維持管理活動やその主体の実態を把握し、住民の利用及び参加や意識に影響する要因を明らかにしている。

② 市民団体の活動に関する研究

萩原ら⁵⁾は、市民参加型事業後に新たに設立される住民自治組織において活動が発展・継続しない課題を分析し、「市民団体の体制」を原因の一つとして考察している。

③ 善福寺川における市民活動に関する研究

中村⁶⁾は善福蛙の一員としての活動に基づき、夢水路事業を杉並区へ提案するきっかけとなった井荻小での河川教育の効果お

よびその実現プロセスと形成条件について考察している。平間⁷⁾はヒアリング調査により市民団体の設立経緯や内容の変遷、活動に対する想いを把握し、夢水路事業の計画期におけるワークショップ（以下、WS）参加者に対して行った働きかけについて明らかにしている。

2.2 本研究の位置づけ

周辺住民の事業および活動への関わり方に着目した研究や、市民団体の活動の変遷および運営体制等から活動の内容や継続の課題を考察した研究はあるものの、市民活動がどのように周辺住民に認知されているかに着目した研究はあまり見られない。本研究では、周辺住民の利用行動や地域における事業や市民活動の実態を把握した上で、市民活動が地域にどのように認知されているのかに着目することに特徴がある。

2.3 研究の方法

現地調査及びヒアリング調査から対象地における市民参加型事業や市民活動の実態を把握する。また、周辺住民の対象地における利用行動や市民活動への認知に関するアンケート調査を行う。その結果の分析によって利用行動特性の把握、市民活動への認知と河川への認識や事業の認識、地域への関心との関係性及びどのような要因が影響を与えているかを明らかにする。

3. 対象地概要

3.1 対象地の選定

対象地は、東京都杉並区内を流れる善福寺川の上流部とする。善福寺川の源流部である都立善福寺公園では、2015年10月より杉並区と周辺住民による協議の末に基本計画が策定された市民参加型事業(通称：みんなの夢水路事業、詳細後述)が、現在行われている。対象地周辺では、地元の環境団体「善福寺川を里川にカエル会」(以下、善福蛙)や完成後の水路の維持管理団体「遅野井川かっぱの会」などの市民団体による活動が行われている。以上のことから、善福寺川の上流部は、市民活動が活発であり、それが具体的な市民参加型事業に結びついた成功例の一例と判断し、対象地として選定した。

3.2 善福寺川の概要と特徴

善福寺川は全長約10.5km、流域面積約18.3km²を有する神田水系の一級河川である。東京都杉並区北西部に位置する善福寺池に水源を持ち、その大部分は杉並区内をゆるやかに蛇行しながら流れている。上流域には都立善福寺公園、中流域には和田堀公園や善福寺川緑地公園があり、河川沿いに豊かな緑地が広がっている。現在では、都市化とともに善福寺池に流水する水

量が激減したために、千川上水からの送水によって流量を保っている。

特徴としては、周辺地域での河川環境への取り組みが盛んで、多くの市民団体が活動していることが挙げられる。また、杉並区による「水鳥の棲む水辺」創生事業によるシンポジウムや善福寺川流域内で活動する市民団体が主催する善福寺フォーラムなどのイベントも毎年定期的に開催されている。



表 3.1 善福寺川概要

| | |
|----|----------|
| 名称 | 善福寺川 |
| 位置 | 杉並区中央部 |
| 区分 | 神田水系一級河川 |
| 全長 | 10.5km |

図 3.1 杉並区・善福寺川の位置

3.3 善福寺川における問題

善福寺川における問題の一つとして、異臭の発生が挙げられる。この原因は合流式下水道の構造上、一定以上の降雨時には河川へ下水が流入するからである。この問題の改善策として杉並区では降雨時に下水道や河川に流入する雨水を減らすための雨水の活用を推進している。

4. 善福寺川における活動の現状把握

4.1 みんなの夢水路事業

みんなの夢水路事業とは、都立善福寺公園内にある上池と下池を結ぶ水路（以下、夢水路）の整備事業である。2014年7月に杉並区立井荻小学校の生徒が区長に提案したことを契機に2017年11月より施工が開始されて、2018年3月に完了予定である。整備後はWSに参加した児童の意見も反映され、誰もが水に親しめ、自然を観察できる自然豊かな空間になる予定である。



図 4.1 夢水路位置図

表 4.1 みんなの夢水路事業概要

| | |
|-------|--|
| 事業名 | みんなの夢水路事業 |
| 事業対象地 | 東京都杉並区善福寺二丁目31番先 |
| 対象区間 | 延長 約160m 管理 東京都 |
| 事業管理 | 杉並区都市整備部土木計画課 |
| 事業内容 | 水辺環境の整備 |
| 事業期間 | 基本設計 平成27年度 詳細設計 平成28年度 工事(予定) 平成29年11月～平成30年3月 |

4.2 現地調査

調査の概要を表4.1に示す。

表4.5.1 現地調査の概要

| | 日時 | 天候 | 調査内容 |
|-----|----------------------------|----|----------------------|
| 第1回 | 2017年10月1日(日) 10:00-16:00 | 晴れ | 活動参加:川づつと故郷の再生シンポジウム |
| 第2回 | 2017年10月14日(日) 11:00-16:00 | 晴れ | 対象地現況把握・利用者行動観察 |
| 第3回 | 2017年10月22日(日) 10:00-16:00 | 雨 | 活動参加:運野井川生き物調査 |
| 第4回 | 2017年11月23日 9:00-16:00 | 曇り | 活動参加:和田堀池かいほり |

全3回の活動参加調査では、近隣の小中学生に活動の一部を体験や参加してもらうという取り組みがなされており、活動団体の河川や自然・水環境に関心を持ってもらおうとする精力的な活動を確認することができた。また、概況調査では、対象地の空間特性として善福寺川全体の中で最も川に接近しており水環境や自然を享受できる空間であることが確認された。

活動の告知については、主にFacebookでのポスターの掲載、近隣の小学校でチラシを配布することで情報発信を行っている。告知の内容に関しては、主に活動の開催と概要が示されている。

4.3 ヒアリング調査

調査日及び対象者を表4.2に示す。

表4.2 ヒアリング調査概要

| 日時 | 所属・人数 |
|----------------------------|-----------------|
| 2017年10月22日(日) 16:30-17:00 | 運野井川かっぱの会代表者等3名 |
| 2017年11月3日(金) 12:30-13:00 | 善福寺共同代表者1名 |
| 2017年12月27日(水) 14:00-15:00 | 杉並区立井荻小学校副校長 |

住民の活動への関わり方について、先の2回の調査では、川に直接入る活動は敬遠されるなどの参加する活動の内容や形式、誘いがけをしても参加に繋がらないこと等が課題だと感じた。また、『善福寺川で継続的に活動している人は、他の地域や団体でも活動している人が多い』という発言もあり、地域への関心と活動の参加には関係性があることが推察できた。

井荻小学校での調査では、低学年の時から段階的なプロセスを経験することで、高学年で行う調査・活動に繋がっていることが分かった。また「引き継ぎの難しさ」「今後の子ども達と善福寺川との関わり方」という課題に関する発言もあった。

4.4 活動の現状把握を踏まえて

活動の現状把握を踏まえて表4.3に示すような仮説が考えられる。

表4.3 活動の現状把握を踏まえた仮説

| | |
|-------|----------------------------|
| 利用行動 | 源流部では水環境や自然を意識した行動が多い【仮説1】 |
| | 地域への関心と関連性があること【仮説2】 |
| 活動の認知 | 井荻小学校と周辺住民の違い【仮説3】 |
| | 段階的なプロセスの存在【仮説4】 |

5. アンケート調査

5.1 アンケート調査の目的

4.4での仮説を踏まえ、地域住民の「活動の認知と参加」「河川および事業の認知」「地域への関心」の把握を行うことを目的とし、アンケート調査を行う。これにより、4.4での仮説の検

証および地域における活動の認知度とどのような要因が関係性を持ち、影響を与えているのかを明らかにする。

5.2 アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表5.1に示した。ポスティングアンケートの配布対象は善福寺1・4丁目及び西荻北4・5丁目を対象として配布した。また、井荻小学校での学校配布により、井荻小学校の保護者にもアンケートを配布した。

表5.1 アンケート調査の概要

| | 「周辺住民」アンケート | 「井荻小」アンケート |
|------|---------------|-------------|
| 配布日 | 2017年12月3日～5日 | 2017年12月11日 |
| 締切日 | 2017年12月22日 | 2017年12月22日 |
| 配布方法 | ポスティング | 学校配布 |
| 回収方法 | 郵送回収 | 学校回収 |
| 配布数 | 1000部 | 300部 |
| 回収数 | 237部 | 109部 |
| 回収率 | 23.7% | 36.3% |

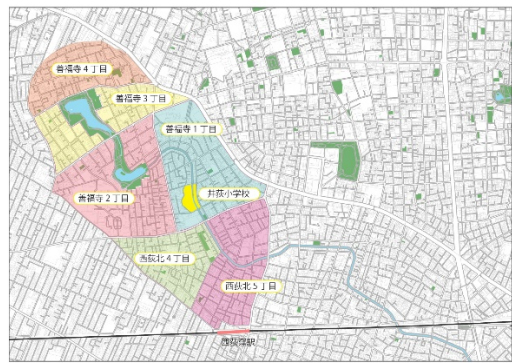


図5.1 アンケート配布範囲

5.3 アンケートの設問内容

アンケートの設問内容について表5.2に示す。

表5.2 アンケート質問内容

| | |
|-----------|--|
| 回答者の属性 | 性別・年齢・職業・居住地 居住年数・子供の小学校 |
| 善福寺川の利用 | 利用頻度・徒歩時間・利用行動 |
| 活動への認知・参加 | 存在の認知・個々の活動の認知度 知ったきっかけ・参加状況・参加しない理由 参加してもよいと思える活動 |
| 河川への認識 | 善福寺川における問題・原因・対策の認知 不満の有無・参加してもよいと思える活動 |
| 事業への認識 | 整備 / 事業経緯の認知 |
| 地域への認識・関心 | 地域行事の認知・参加・地域への関心 不満の有無・参加してもよいと思える活動 |

5.4 アンケート調査の結果

1) 回答者属性

各アンケートの性別および年齢を図5.2に、居住地を図5.3に示す。性別・年齢について学校配布アンケートでは30・40代女性に大きな偏りが見られる。また、居住地についても両アンケート間ともに善福寺1丁目が最も多く、その他の地域では回答者の割合で違いが見られる。

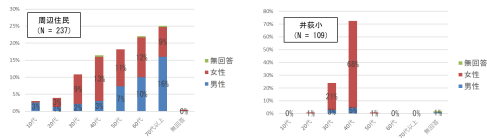


図5.2 回答者の性別および年齢

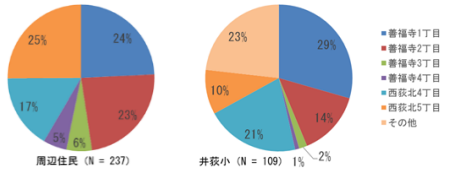


図5.3 回答者の居住地

2) 善福寺川における利用行動

2つのアンケートを併し、居住地別で見た善福寺川における利用行動の中で上位5つを表5.3に示す。すべての地区で散歩が最も多い。【家族での遊び】や【休憩・気分転換】といった「快楽性」に関する要素や【通り道】【ウォーキングやジョギング】といった「通過・行動性」に関する要素が多くみられるが、仮説1で示した「自然性」に関する要素はあまり見られなかった。

表5.3 居住地別の利用行動

| 地区 | 利用行動の内容 | | | | |
|--------|---------|---------|--------------|--------------|--------------|
| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
| 善福寺1丁目 | 散歩 | 家族での遊び | ウォーキングやジョギング | 通り道 | 通勤・通学 |
| | 52% | 27% | 25% | 22% | 18% |
| 善福寺2丁目 | 散歩 | 家族での遊び | ウォーキングやジョギング | 休憩・気分転換 | 通り道 |
| | 67% | 30% | 27% | 27% | 20% |
| 善福寺3丁目 | 散歩 | 休憩・気分転換 | 通り道 | ウォーキングやジョギング | 植物観察 |
| | 73% | 47% | 40% | 27% | 20% |
| 善福寺4丁目 | 散歩 | 通り道 | 休憩・気分転換 | ウォーキングやジョギング | 友人との交流 |
| | 62% | 47% | 40% | 31% | 23% |
| 西萩北4丁目 | 散歩 | 家族での遊び | 休憩・気分転換 | 通り道 | ウォーキングやジョギング |
| | 54% | 31% | 28% | 23% | 20% |
| 西萩北5丁目 | 散歩 | 通り道 | 休憩・気分転換 | 川を眺める | 通勤・通学 |
| | 59% | 28% | 22% | 20% | 19% |

3) 活動の認知

各アンケートの活動の存在に対する認知について図5.4に示した。2つのアンケートを比較すると、【聞いたことや見たことはある】の回答について大きく差が見られる。また、ポスティング配布アンケートでは【全く知らない】が58%を占めており、地域における活動の認知はあまり広まっていないことが分かる。

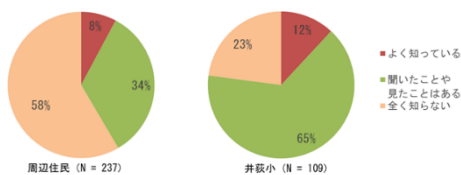


図5.4 活動の存在に対する認知

4) 知ったきっかけ

活動を知ったきっかけについて図5.5に示す。市民団体が情報の発信源としている【SNS】の回答は最も低く、杉並区が発行している【広報すぎなみ】や【公園内の掲示】などが知ったきっかけとして多く上げられている。年代別に見ると、50代以上では全体集計と同様の傾向が見えるが、30・40代では【子供・学校からの情報】が最も高い。

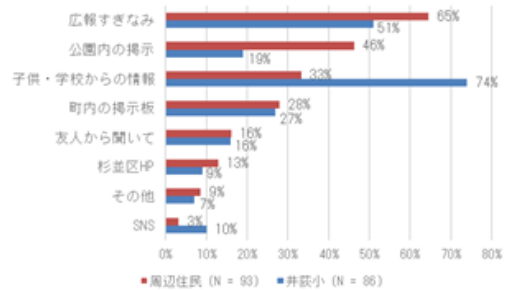


図5.6 活動を知ったきっかけ

5) 参加しない理由

活動に参加しない理由について図5.7に示す。【活動を知らない】が最も多い。「活動を認知している」と回答した人に関しては【予定が合わない】【強制ではない】という回答が多く見られた。また、年代別に見ると、50代以上では【地域との関りが薄いから】という回答が多く見られた。

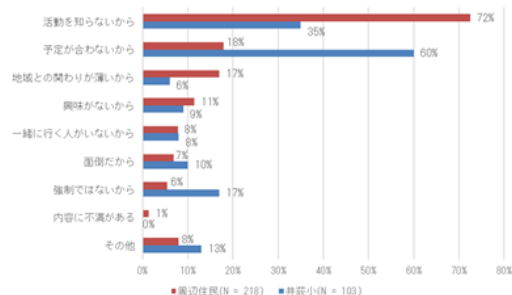


図5.7 活動に参加しない理由

5.5 配布方法による相違の検定

本研究で用いたアンケートでは配布方法の違いが分析に影響を与える可能性があるために、併合の可否を判定する必要がある。そのために、属性で大きな違いが見られる30・40代女性に条件を絞って、両アンケート間で活動の認知や河川の認識等について χ^2 検定による有意差判定を行った。その結果、1%水準で有意差が見られる項目が見られたために、2つのアンケートを併合した際の分析に影響を与える要因は、配布方法の違いによるものではなく、他の属性による違いであると考えられる。よって、以後の分析は2つのアンケートを併合して進めることとする。

6. アンケート結果の分析

6.1 分析手法

「活動への認知・参加」「河川への認識」に関しては、相関分析と数量化Ⅱ類を用いることで、どのような要因が市民活動の認知と関連しているかを考察する。また、仮説3と4に関する検証を行う。

6.2 データの結合

本アンケートでは設問に対する認知度について、3もしくは4段階で回答する形式になっており、「参加経験あり」「内容の認知」「存在の認知」「全く知らない」を表している。設問項目に対する「内容の認知」と「存在の認知」に関連する要因を明らかにするために、「存在の認知」を表すデータを「○○の存在」、「内容の認知」を表すデータを「○○の内容」として扱う。

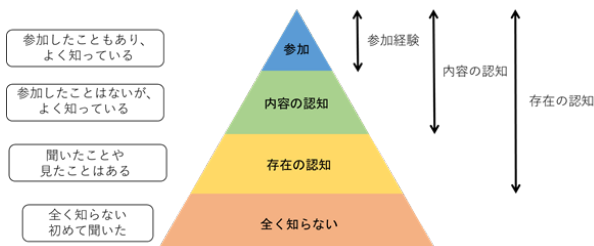


図6.1 データ結合の概要

6.3 相関分析

活動の認知に関連する要因を検討するために、相関分析を行った結果を表6.1に示す。分析の結果、「活動の認知」「河川の認識」「事業の認識」の3つの要素間には全て有意な連関係数が示されるとともに、概ね0.25を超えていることから強い相関性があると判断できる。また、「地域への関心」や「愛着意識」と「活動の認知」については有意な連関係数が示されており、「河川の認識」「事業の認識」についても連関係数は低いものの有意な連関係数が示されていることから、相関性があることを示唆しており、仮説2が示唆できると考えられる。

6.4 数量化Ⅱ類による分析

1) 数量化理論による分析の精度

地域における市民活動の認知に影響する要因を明らかにするために、得られたアンケート結果を数量化Ⅱ類によって分析を行った。各項目間での分析の精度を判断するための指標を表6.2に示す。なお、検定の結果はいずれも1%有意であった。判別の中率は高いものの、相関比が良くないものもいくつかあることを考慮した上で結果をまとめる。

表6.2 分析の精度を判断する指標

| 目的変数 | 判別の中率, 相関比 r |
|---------|----------------|
| 活動の存在A | 76.0%, 0.344 |
| 活動の存在B | 89.2%, 0.533 |
| 異臭の存在A | 81.9%, 0.471 |
| 異臭の存在B | 79.4%, 0.383 |
| 合流式下水道A | 89.2%, 0.606 |
| 合流式下水道B | 93.6%, 0.612 |
| 雨水の活用A | 84.3%, 0.460 |
| 雨水の活用B | 92.6%, 0.561 |
| 整備の認知A | 81.4%, 0.498 |
| 整備の認知B | 87.7%, 0.370 |
| 事業経緯A | 83.8%, 0.500 |
| 事業経緯B | 96.6%, 0.558 |

2) 数量化理論による分析の結果

以下に、各目的変数においてレンジが大きい上位3つをのせて各変数の項目を表6.3にまとめる。レンジの値および有意差判定から各目的変数への影響が大きいと考えられる項目を網掛けで示している。以下に、活動の認知及び河川の認識、事業の認知に関する分析結果を取り上げてまとめる。

【活動の認知】：河川および事業の認識が与える影響は大きい
また存在の認知については、利用頻度の影響も大きい。

【河川の認識】：河川の認識に関する項目間で大きな影響を与えているものの、事業の認識が与える影響も確認できる。一方で、活動の認知や頻度が与える影響はかなり小さいと考えられる。

【事業の認識】：事業の認識に関する項目間で大きな影響を与えているものの、河川の認識や活動の認知、頻度が与える影響は小さいと考えられる。

表6.1 項目間の相関分析の結果

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|----|
| 1. 活動の存在 | | | | | | | | | | | | |
| 2. 異臭の存在 | 0.236** | | | | | | | | | | | |
| 3. 合流式下水道 | 0.312** | 0.506** | | | | | | | | | | |
| 4. 雨水の活用 | 0.344** | 0.347** | 0.640** | | | | | | | | | |
| 5. 整備の認知 | 0.390** | 0.239** | 0.360** | 0.353** | | | | | | | | |
| 6. 事業経緯 | 0.433** | 0.259** | 0.396** | 0.404** | 0.607** | | | | | | | |
| 7. 納涼盆祭り大会 | 0.288** | 0.171** | 0.115 | 0.149** | 0.143* | 0.144* | | | | | | |
| 8. すぎなみフェスタ | 0.275** | 0.123 | 0.174** | 0.138 | 0.186** | 0.164** | 0.274** | | | | | |
| 9. 区政への関心 | 0.163** | 0.116 | 0.191** | 0.202** | 0.118 | 0.136* | 0.156* | 0.123 | | | | |
| 10. 愛着意識 | 0.142* | 0.156* | 0.196** | 0.152* | 0.111 | 0.150* | 0.146* | 0.142* | 0.145* | | | |
| 11. 帰属意識 | 0.090 | 0.125 | 0.130 | 0.112 | 0.076 | 0.095 | 0.115 | 0.111 | 0.141 | 0.282** | | |
| 12. 仲間意識 | 0.178** | 0.129 | 0.106 | 0.149* | 0.118 | 0.162* | 0.127 | 0.143* | 0.154* | 0.304** | 0.290** | |

0.25以上0.5未満 : やや強い相関
0.5以上0.8未満 : 強い相関

**p<.01, *p<.05

表 6.3 数量化Ⅱ類による分析の結果

| 目的変数 | 性別 | 年齢 | 居住地 | 居住年数 | 徒歩時間 | 頻度 | 活動の存在 | 活動の内容 | 説明変数 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|------------|------|------|------------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----------|-------|----------|-------|-------|---------|---------|------------|--|------------|
| | | | | | | | | | 異臭の存在 | 異臭の発生 | 合流式下水道の存在 | 合流式下水道の内容 | 雨水の活用 | 雨水の活用の内容 | 整備の存在 | 整備の内容 | 事業経緯の存在 | 事業経緯の内容 | | | |
| 活動の存在 | | | | | | 0.774[**] | | | | | | | | | | | | | 0.972[***] | | |
| 活動の内容 | | | 0.759[] | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.752[***] |
| 異臭の存在 | | | 1.311[**] | | | 0.709[***] | | | | | | | | | | | | | | | |
| 異臭の発生 | | | 0.751[] | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合流式下水道の存在 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.332[***] |
| 合流式下水道の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雨水の活用 | | | 0.764[] | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.675[***] |
| 雨水の活用の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 整備の存在 | | | 1.383[***] | | | 0.669[***] | | | | | | | | | | | | | | | 1.443[***] |
| 整備の内容 | | | 0.644[**] | | | 0.322[] | | | | | | | | | | | | | | | 2.967[***] |
| 事業経緯の存在 | | | 0.982[] | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.264[***] |
| 事業経緯の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.830[***] |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.910[***] |

6.5 分析の結果

5.5でのχ²検定及び数量化Ⅱ類による分析の結果から、有意差が出た項目で【整備の存在】以外は、居住地の違いによる影響はあまりないと考えられる。これは【学校配布アンケート】の方が有意差が出た項目について認知度が高いことを示しており、仮説3を示唆できると考えられる。

相関分析および数量化Ⅱ類による分析の結果から、活動の認知に至るまでのプロセスの構図として図6.2に示すようなモデルが考えられる。このモデルは【河川の認識】や【事業の認識】を深めることが【活動の認知】に正の影響を及ぼすという段階的なプロセスを示しており、これは仮説4を示唆するものだと考えられる。

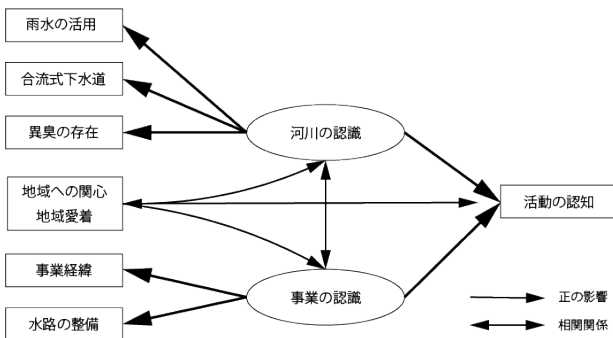


図6.2 活動の認知に影響を与える構図

7. まとめ

1. 活動実態と活動の認知に関するまとめ

実態把握調査及びアンケート調査の分析から得られた結果を以下に整理する。

- 1) 現地調査及び既存研究から、対象地は善福寺川の中で最も自然を感じられる空間であることや、それを地域住民に理解・体験してもらおうとする市民活動に実態や活動の告知の概要を把握した。
- 2) ヒアリング調査から、活動の課題として住民が参加したいと思える活動の形式や内容を考えることが挙げられた。また、井荻小における調査では、高学年での善福寺川での活動・調査に繋げるために、低学年の時から段階的にプロセスを経験していることが分かった。

3) アンケート調査から、利用行動については水環境や自然を意識した利用行動特性は見られなかった。参加しない理由としては【活動を知らない】という回答が最も多く、地域全体に活動の認知が広まっているとは言えない。知ったきっかけとしては【SNS】という回答が最も少なく、市民団体からのアピールの効用は小さく、区や町内会、地元の小学校と連携して告知することが必要だと示唆される。

4) 数量化Ⅱ類による分析から、井荻小学校の保護者の方が地域住民よりも活動を認知していることが示唆された。また、【活動の認知】は、【河川の認識】や【事業の認識】から影響を受けており、【活動の認知】を形成するまでの段階的なプロセスが存在することが示唆される。

2. 今後の課題

本研究では、活動の認知に影響を与える段階的なプロセスのモデルの仮説を示したが、共分散構造分析によるモデルの適合性の検証および複数のモデルを作成した上での更なる検証が必要である。また、「河川の認識」「事業の認識」に至るまでのプロセスや「活動の認知」から「活動の参加」に至るまでのプロセスに関して今後明らかにする必要がある。

(参考文献)

- 1) 中井祐・崎谷浩一郎・篠原修：宿毛・松田川河川公園(仮称)の設計、景観デザイン研究論文集 No.1 pp.45-55,2006.
- 2) 国土交通省HP,「地域振興 活力と魅力ある地域づくり 多様な主体による協働」, http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku_chisei_tk_000061.html, (参照2017.11.15)
- 3) 伊藤将司・森本章倫：参加型の社会資本整備事業における継続活動の要因分析に関する研究,土木学会論文集D3 Vol.67 No.5 pp.101-105 2008
- 4) 金理愛：近自然公園における住民の活動実態と認識に関する研究—愛知県豊田市児ノ口公園を対象として—,早稲田大学創造理工学部社会環境工学科2014
- 5) 萩原和・星野敏：「テーマ型」地域活動において既存組織が形成する社会ネットワークの可視化,農村計画学誌Vol.31, pp.273-278 2012
- 6) 中村晋一郎：都市河川による「川離れ」の形成とその解決のための「気づき」の効果について—東京・善福寺川における河川教育の実践を通して—,土木計画学研究発表会・講演集, Vol.55, 59-01 2016
- 7) 平間紗希：都市河川を対象に活動している市民団体の調査研究—渋谷川ルネッサンス」と「善福寺川を里川にカエル会」を対象として、早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 卒業論文2016